

図書館とともだち

図書館とともだち・鎌倉 おしらせ No. 228

2024・11・27

朝晴れに ぱちぱち炭の 機嫌かな

――茶――

師走が近づくと

一年速かったなあ…と

毎年思います。

こんなふうを感じるようになったのは
いつ頃からだったろう。

子どもの頃は

時間軸よりも速く

毎日を駆け抜けていたのに。

○ CONTENTS ○

	PAGE
☆ 新庁舎の基本設計業者が決まる	…1
☆ 旧鎌倉図書館の古材を見学しました	…2
☆ 令和6年度第2回図書館協議会を傍聴して	…3
☆ 「陣出と深沢周辺の歴史を探る」講演会を終えて	…4
☆ 祝・国登録有形文化財登録 旧鎌倉図書館見学会&講演会 報告	…5
☆ 銀幕情報	
☆ 小坂小学校の学校図書館を見学してきました	…6
☆ 文科省から面談報告書が届きました	
☆ 松坡先生をめぐる人々 21 成瀬美雄 袴田潤一	…7
☆ 長野麻子さん講演会参加報告	…8
☆ 作家・丘修三さんがTOTOMOに著書をご寄贈くださいました！	
☆ F☆L実行委員会報告／活動日誌	…9
☆ 事務局から	…10

新庁舎の基本設計業者が決まる

～図書館は市役所の図書コーナー？～

本年10月3日に市は新市庁舎の基本設計を担う事業者が日建設計に決まったと発表しました。新聞報道によれば（これを記事にしたのは朝日新聞と読売新聞のみ）11月に仮契約し12月議会で承認されれば、そのあと本契約を結ぶ予定になっているようです。朝日新聞の記事ではサブタイトルに「鎌倉市役所移転 見通せぬまま」としているように先行き不明の状況での基本設計着手となっています。

市のホームページに第1次審査のときのイメージ図よりは詳しい日建設計の企画提案書が掲載されています。でも図書館がどうなるのかという視点で見してみる限り、より具体的な内容にはなっていません。図書館がある1階フロアのイメージ図に文字や人物の書き込みがある以外に変わりはなく、説明文が加えられていますが、それは「図書機能は司書コーナーを中心に比較的静かな空間となる北側を中心に配置し、泣塔の緑と繋がった空間でゆっくりと図書を読んだり、カフェを利用しながら利用できるようにします」というものです。

「図書館」ではなく「図書機能」とあり、そこは深沢図書館という鎌倉の地域図書館ではなく市役所の図書機能という位置づけに見えてしまいます。また「ゆっくり読書する」「カフェを利用できる」ということが強調されています。図書館にそういう要素が求められていることに異存はありませんが、図書館は何よりも市民が「知る、見る、考える」ための「知的セーフティネット」であり、加えて深沢図書館は子ども読書活動推進計画の拠点館として市全域の学校や児童施設への団体貸出を担っている図書館です。

「司書コーナー」という今まで聞いたことがないような用語も使われており、この企画提案書を見る限りでは図書館のことをよく理解している事業者とは感じられません。

説明文には「DX ワークショップ」とか「説明会」を実施するとしています。それらが具体的にどういものなのかわかりませんが、ぜひ実現してほしいと思います。参考までに他都市で図書館建設にあたって、どのように市民の意見を反映させる方法をとったのか、のぞましい事例をいくつか紹介します。この情報の典拠は『市民とつくる図書館』（勉誠出版 2021 年刊）です。

大船渡市では複合文化施設をつくるにあたって設計者、市民、行政担当者が構成される会を立ち上げ、ワークショップでの市民からの意見で当初の計画になかった図書館をつくることになり、会合を重ねる中で「市民参加」から「市民参画」に発展し、基本設計はもとより実施設計まで市民の意見が反映されるようになっていきます。

日進市では基本計画、基本設計、建設段階で市民ワークショップを開催し、議論しやすいように市民意見を整理した「設計確認カルテ」や図面だけでは把握しきれない項目を網羅的に整理できる「ジョブカルテ」という設計ツールを活用しています。

伊万里市では実施設計段階でも市民を中心にした「図書館建設懇話会」から出された意見や要望に対応し、1年間で5回のグループヒヤリングがなされています。このとき設計者は「図書館づくりは市民と司書と設計者の格闘技である」という意気込みと真摯さで取り組んだといいます。

鎌倉市においても他都市の事例を参考にしながら基本設計段階はもとより実施設計、建設段階でも市民の意見を（ただ聞くだけでなく）事業に反映できるような場をつくるべきですし、分野別のきめ細かい対応が求められると考えます。図書館分野に関しても、短く書き込んだカードをただパネルに並べるだけというワークショップではなく意見交換やそれをまとめた提案ができるような場を開催することを要望します。

(和田)

旧鎌倉図書館の古材を見学しました



御成小学校 旧講堂内に保管されている旧鎌倉図書館古材

10月30日(水)の例会前の10時半から30分ほど、保管されている旧鎌倉図書館の古材の状態を見学させていただきました。場所は御成小学校の旧講堂なので学校施設課に見学を申し入れ、いつでも可能ですということでしたので電話予約して実現したものです。当日は学校施設課施設担当の職員の方に立ち会っていただきました。

旧講堂内は以前に見学したときより老朽化した印象でしたが、保管場所は南側の日当たりがよく乾燥していてスペースも十分なところで、痛みは少ないように見えました。保管されているのは書庫にあった組み立て式書架の部材のみで、解体して板状になったものがラフに並べられ、ブルーシートがかぶせられている部分もあるなど、望ましい保存状態とはいえませんでした。とりあえず確認できてよかったです。

来年の秋にこの旧講堂の修復工事が始まる予定になっているので、工事が始まったらどこに保管されるのか気になります。また、古材の保管状況がなかなか見えにくいと感じていましたので、改修・修復工事をする際の記録文書や調査報告書などは永年保存してほしいと思いました。

(和田)

令和6年度第2回図書館協議会を傍聴して

2024年8月8日14時～15時45分 中央図書館

鎌倉市図書館は「鎌倉市図書館ビジョン ～つながる ひろがる 100年図書館～」を定め、鎌倉市図書館が目指す「あるべき姿」を次のように示しています。

鎌倉市図書館は、鎌倉に住まい、鎌倉に生き、鎌倉を愛する人のための図書館です。

市民の「知る自由」を保障し、誰も取りこぼさない知的セーフティーネットでなければなりません。

市は責任を持って持続可能な図書館経営を行っていく必要があります。

職員は、市民から何を望まれているのかを常に立ち返って考え、市民の声に応え、協働して歩む姿勢を忘れてはなりません。

蓄積された過去を知り、移り変わる現在を学び、未来に思いをはせるための場所。

図書館にしかできないことを見失わず、100年先まで鎌倉に生きる人たちの力になる場所。

それが鎌倉市図書館のあるべき姿です。

このビジョンのもとに運営される鎌倉市図書館にとり、図書館協議会はどのような存在でしょうか？11月22日現在、8月8日の会議録は図書館HPに掲載されていません。当日の配布資料さえアップされていないのです。図書館を大切に考え、次世代に手渡すよりよい図書館づくりのために協力したいと願う市民がいても、図書館の現状が適切なタイミングで共有できなければ建設的な声をあげることは困難です。1年以上会議録が掲載されない時もありました。教育委員会で行われているように、正式の会議録がHPに掲載されるまでの期間は希望者に音声版会議録が頒布されるよう望みます。[図書館協議会 | 鎌倉市図書館](#)

当会が7月12日に提出した要望書(会報 No.226 添付)が事前に委員に送付されたことは傍聴で確認できましたが、館長からは「新庁舎等基本設計については11月に事業者が確定し12月以降業務が進められることが想定されるので、図書館には速やかな対応が求められている。図書館協議会への諮問は時間がかかるので今回は「諮問」ではなくこれまでの「協議」内容を参考に図書館としての要望をまとめ担当部局や事業者に伝えていきたいと考えている」旨の説明がありました。しかし、速やかな対応を願っていたからこそ当会では今年の早い段階から図書館協議会への諮問の必要性を図書館に提案し、議会からも諮問を促す質問があったのではないのでしょうか？後手になったことへの弁解のように聞こえてしまい腑に落ちません。また今後12月15日で委員の改選があることも諮問しない理由として述べられましたが、改選間近の委員の意見は重用できないような言及も納得しがたいことでした。複数の協議会委員から、これから現庁舎跡地の計画などもあるだろうから今後はぜひ前向きに図書館協議会への諮問を検討してほしいとの強い希望が出ましたが、館長からの明確なお答えはありませんでした。

当会への回答書は提出して2か月以上経た後ようやく届きました。(添付資料1)

5名の協議会委員に限らず、17万市民の誰もが、いつでも、どこにいても、新しく計画される図書館にむけた「協議」内容に希望をもってアクセスでき、臆せず意見が出せるような積極的な仕組みづくりをしてほしいと願います。昨年突然に開かれ当惑したようなコンサルタントに司会を委ねる一方的なワークショップではなく、設計者と現場職員と市民が情報を共有し、知恵を寄せ合い、円卓で話し合えるような場づくりへの厚い配慮こそが、新しい施設や図書館への市民の関心を高め、継続的な市民の応援を得られる近道であり王道と考えます。他自治体では、新図書館の建設に合わせて図書館協議会だけでなく広く市民に呼び掛けての利用者懇談会や図書館見学会を開催する事例もあり羨ましく思います。

10月3日、深沢図書館を含む「鎌倉市新庁舎等基本設計及びDX支援業務」を委託する最優秀提案者(優先交渉権者)が、株式会社日建設計に決定したとの発表がありました。当会は、鎌倉市図書館ビジョンのもと、関係者と共に新しい図書館づくりにむけて引続き尽力してまいります。(阿曾)

<速報>11月22日、第3回図書館協議会が開かれ、「諮問」されることが報告されました。まずはほっとしました。

・・・「陣出と深沢周辺の歴史を探る」古田土俊一氏講演会が開催されました・・・

2024年10月20日（日）於：鎌倉市中央図書館多目的室



講師：古田土俊一氏

深沢地域のまちづくり整備が進んでいます。昨年7月に市有地部分 420 m²の発掘調査が行われ、縄文、弥生から平安にいたるまでの埋蔵文化財が多数出土したことは会報 No.226と227で報告しました。今回は、隣接する UR 開発予定地を含む深沢周辺の地形や歴史を学ぶための講演会を開催しました。講師による詳細な資料は会報と併せて当会 HP に掲載しますのでご参照ください。この地は、先の発掘に続く場所であるだけでなく、繰り返し水害に見舞われてきた柏尾川流域です。田畑が広がり北側では温泉が湧いた田園風景でしたが、戦争中に横須賀海軍工廠深沢分工場に改変され、戦後は国鉄大船工場から JR 大船工場へと変遷を重ねた戦争遺跡でもあります。鎌倉には近代遺跡に精通した学芸員もいらっしゃるのに、今小路西遺跡で報告されたような近代遺構の出土遺物を知る機会が少ないのは残念です。未来の鎌倉びとが深沢の貴重な原風景を想起できるよう、市は発掘の必要性を事業者に指導し、縄文から近代に至るまでの埋蔵文化財について記録保存する必要があるのではないのでしょうか？第3の都市づくりが企図される

広大な地だからこそ、古の人びとが長きにわたって紡いできた深沢の歴史や文化を、行政、事業者、市民が共有し今後活かしていけるような発想と場づくりが望まれます。当日、参加者からたくさんの声が寄せられましたので一部ご紹介します。（阿曾）

・深沢在住ですが、知らないことが沢山あり有意義な2時間となりました。身近な地名を改めて見直す機会となりました。藤沢市の地名についても解説いただき、今の市境にとらわれない昔の人々の足跡をたどるのは興味深く楽しいものだと感じました。

千代塚については、詳しくは知りませんでした。温泉とからめて場所を推定するという、今は失われてしまったものを手がかりにする上では、残された調査資料は非常に貴重で、現在真上で開発が行われようという時に後世に記録を残す必要が有ると思いました。山崎八雲のおみこしの他にも2つ神の出合いの祭りがあるとのこと、更に興味が増しました。

・笹田に住んでおります。文化果つる地“深澤村”と残念に思っておりました。歴史ある地と知り、嬉しく思いました。

・鎌倉の歴史には、とても興味がありますが、今日は特に自分が住んでいる梶原近辺について詳しく話して頂き、益々興味が深まりました。行ったことがある所知らない所もあり、知らなかった所は是非行ってみようと思います。

・地元である深沢についての大変興味深いお話を伺うことができ、良かったです。今後もこのような会を開いていただけると大変嬉しいです。

・地名の調査から歴史本の読み解きまで、何も知らない私でも、分かり易い解説を頂き、楽しみが増えました。もっと、自分で調べたい！という気になりました。ありがとうございました。

・古田土先生の話はとても明解なご説明でとても興味深く拝聴致しました。郷土愛につながるお話でした。陣出・深沢で発掘された現場の一部でも全て記録後に破壊してしまうのではなく是非現場で現物保存し、ガラス張り等して公開・見学できるように強く市に要望したいです。日本史の一部なので。日本の財産ですから。

・土地の名称の由来からはじまり、形状の変化、鎌倉合戦以降、泣塔をシンボリックに表現して下さったことに感動しました。深沢の歴史が更に興味深く感じられました。今後も深堀りをしていきたいと思います。古田土先生、ありがとうございました。 鎌倉泣塔クラブ

祝・国登録有形文化財登録 旧鎌倉図書館見学会&講演会 報告

10月27日(日) 於：鎌倉市中央図書館/旧鎌倉図書館見学



菅孝能氏講演「旧鎌倉図書館はこう保存された」

図書館とともだち・鎌倉(間島弟彦・間島愛子夫妻旌徳の会)では、今年度も湘南邸園文化祭 2024 にエントリーして、「旧鎌倉図書館見学会&講演会」を企画しました。25名の参加者が鎌倉市中央図書館に集まりました。司会の和田さんから、2014年解体が決まった旧鎌倉図書館が、保存を強く願う市民の声と行動によって、2023年復元保存、2024年国登録文化財となった経過が伝えられました。

次に、建築家菅孝能氏による講演「旧鎌倉図書館はこう保存された」を聴きました。まずは、歴史的資料により、1911(明治44)年、神奈川県内最初期の先駆的公共図書館であった鎌倉図書館の創設からの説明がありました。1936(昭和11)年、御成小学校内に再建された鎌倉町立図書館(間島愛子寄付)の保存運動、建物の調査から再建の設計まで関わられたのが菅孝能氏でした。今回用意された資料は、平面図と合わせて解体した際の様々な角度からの写真もあり、あらためて図書館建築の特色を認識しました。個人的には日当たりが良く、明るい婦人閲覧室の存在が記録に残されたことは、図書館史にとっても貴重なことだと思いました。

講演の後、雨を心配しながらも、旧図書館の見学に行きました。子供が利用する施設となったので、図書館内部見学はできませんでしたが、担当課の協力で敷地内に入り「間島君旌徳碑」の解説を聴き、旧鎌倉図書館の外観復元・保全までの様々な配慮について建築家から説明を受けました。参加者には、歴史的な建物を復元して、どのように活用しているか興味があつて遠方からいらした方、また旧図書館の近くに住んでいて、母親と共に利用していた思い出がある方、鎌倉在住で初めて来てみたという方など、それぞれの思いがあつたようですが、参加者アンケートでは、やはり内部の見学ができなかったのは残念であるという意見が多くみられました。子供たちへの配慮も必要であるが、日程を決めて開放することも検討して欲しいという提案もありました。また保存改修のために努力された方々に感謝したい、感銘しましたという意見も多く寄せられました。

今回の企画は、旧鎌倉図書館の国登録有形文化財としてのお披露目にもなり、またこれから旧鎌倉図書館が市民に長く愛され、大切に保存されることを参加者の皆さんと願ったものとなりました。

(青木玲子)



当日、応援の寄付をお願いした、TOTOMO 手作り特製募金箱

かまくら銀幕上映会のお知らせ(主催：ドリーム・アーツ(03-5969-8081) 於：鎌倉芸術館小ホール)

12/5(木)『プリシラ』

12/19(木)『翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～』

1/9(木)『トノバン 音楽家 加藤和彦とその時代』

1/23(木)『アナウンサーたちの戦争』☆上映前にフリーアナウンサー斉藤安弘さん(元ニッポン放送アナウンサー)のショートトークがあります(①11:00~②14:00~の2回)



◎前売り券・シニア1000円(当日券1300円)◎上映時間 ①11:00~②14:00~ ☆上映スケジュールの確認は鎌倉芸術館(0467-48-5500)

小坂小学校の学校図書館を見学してきました

本年9月に学校図書館を語りあうグループが発足し、10月16日、第2回目の集まりを持ちました。学校図書館をよくしていくことを願っての活動はTOTOMO発足直後から断続的に行ってきました。しかし公共図書館と違って関係者以外日常的に立ち入れない場所であり途中で息切れする状況が続きました。ところが昨年9月の市議会質問に触発されたメンバーによって改めて学校図書館について意見交換するグループが生まれたのでした。多忙なメンバーが多くりアルの集まりはなかなか大変ですが、志を高くかかげ歩みを進めていきたいと思います。まずは鎌倉の学校図書館状況の把握から始めようと話し合いました。

そんな中で、30数年ぶりに小坂小学校の学校図書館を見学する機会に恵まれました。保護者として足しげく通った懐かしい学校ですが、子どもが卒業してからはおはなしボランティアとして朝読書の時間に参加するくらいで校内には殆ど縁がありませんでした。学校図書館をリニューアルしたから、とのお誘いを受けて30数年ぶりに学校図書館に入り、興味津々で見学させて頂きました。まず目を引かれたのはそこかしこの書架上に置かれた0から9までの大きな数字グッズです。日本十進分類法へのさりげない導入の意図を理解できたのは図書館友の会活動のお陰です。わが子ども時代から学校図書館は近い存在でしたが、ゼロモン(0門)からキュウモン(9門)で古今東西の書物が整理されていることの認識は全くありませんでした。もしかしたら子どもたちが本を戻すとき、学校司書さんから「それは5の棚にいれてね」と呼びかけられているのかもしれませんが。あるいは子どもたちが「この大きな数字はなんでここにあるんだろう？」と不思議に感じているのかも。

限られた予算を工夫し、先生方はじめたくさんの協力者とともにラブリーに変身した手作りの椅子が並んでいま



小坂小学校 学校図書館

す。見事にカスタマイズされた書棚に収まった本たちの「読んで！読んで！」の声が立ち上ってくるような居心地のよい空間に感激した見学者3名でした。

最後に、カウンターに置かれたパソコンを囲んで、鎌倉市小中学校の図書館システムである「探調ツール」を使った本の注文や新規登録の方法、子どもたちの貸出や返却方法を教えてもらいました。蔵書管理のデジタル化に関するパワーポイントの説明だけでは理解できなかったので、作業の手順を実地見学できてありがたかったです。帰り際、お世話になった先生と偶然にお会いできたことも嬉しいサプライズでした。(阿曾)

*0門から9門とは？：日本十進分類法では、0～9の数字を用いて0門～9門という分け方で分野別に図書を分類します。多くの学校図書館でもこの方法が用いられています。



図書館友の会全国連絡会より報告 文科省から面談報告書が届きました

図書館友の会全国連絡会(図友連)が本年5月28～29日に行った総務省、文科省、国会図書館への要請行動については、7月31日発行の会報No. 226でくわしく報告しました。その際未着だった文科省からの面談報告書が9月10日に届きましたので添付します(添付資料2)。例年、文科省から「回答書」は頂けず「面談報告書」がその代わりになっています。現在、図友連では来年度の要請にむけて意見交換が始まっています。衆議院の議員構成が随分かわりました。全国の仲間たちと力を合わせ、今年もがんばって要請したいと思います。(阿曾)

松坡先生をめぐる人々 21 成瀬美雄

松坡文庫研究会 代表 袴田潤一



成瀬美雄

『智仁勇』353号(智仁勇社 1939.7)
所載 犬山城白帝文庫所蔵

阪正臣の喜寿祝いの書画帖贈呈の趣意書(1931 田辺松坡起草)に名を連ねている鎌山同人16人の何人かについては既にこの連載で紹介してきました(鎌山というのが「鎌山翰墨会」の略記だということ)は最近になって確認できまし

た。今回は成瀬美雄(1872~1939 号は蘇陰)を紹介し、美雄は犬山藩最後の藩主正肥の三男(長男早世のため次男と書かれることがある)として東京に生まれました。海軍兵学校22期で、少尉・中尉・大尉・少佐として軍務に就き、大正元(1912)年中佐待命、従五位勲四等功五級。日露戦争では瓜生外吉が司令官を務める第四戦隊の旗艦浪速の水雷長でしたが、具体的な記録は未見です。鎌倉大町に別荘を持ち、松社の詩会に参加し、画も嗜むなど、「鎌山翰墨会」の何人かと知遇を得たのだと思います。同人をめぐる人間関係は複雑です。

ところで、犬山藩と言えば犬山城。維新後、明治6(1873)年には廃城が決まりましたが、直ちに取

り毀されることはなく、同8(1875)年には城山全体が公園(稲置公園)となり、櫓や門などは次第に売り払われていきました。その後、24(1891)年10月28日の大地震(濃尾地震)で天守は大きな損害を受けます。城は修繕を前提に成瀬正肥に無償譲渡され、正肥は4,500万円をかけて明治33(1900)年までに修繕を済ませ、41(1908)年には一般登閣を許可するに至りました。後に美雄は、そうしたことを含めて犬山城の沿革をまとめています。

(『犬山城沿革』 智仁勇社 1927)。正肥没後、城は美雄の兄である正雄(1869~1949)、正雄の長男である正勝(1906~1973) 正勝の長男である正俊(1930~2008)に継承されましたが、個人所有には限界があり、2004年4月に財団法人犬山城白帝文庫を設立して法人所有となっています。理事長は正勝の長女淳子(じゅんこ)淳子(1964~)です。

松社同人としての蘇陰については多くの記録があるというわけではありません。昭和6(1931)年春、同人7名と探梅に赴いたことが松坡先生の詩から判ります。「春游絶句十首」と題された作(『漢詩春秋』第15巻第4号1931.4.1)の引(序、詞書)に「辛未三月八日、玉川に遊ぶ、連光寺の聖蹟を訪い、分倍磧を経て久地に梅花を探り、薄暮家に帰る。一行は蘇陰、越山、羽州、松窓、翠峰、紫海及び余七名」。蘇陰の漢詩で活字になって残っているものも残念ながらありません。画は翰墨会の大橋康邦或いは関谷雲崖に手ほどきを受けていたとも考えられ、春田源之丞の喜寿祝いの『巖帖』に作品を寄せています。

昭和4(1929)年7月末に松坡先生は蘇陰の強い勧めで犬山に足を運びました。名古屋での或る吟社の会に参加するという目的もありました。同行したのは、帰省を兼ねた蘇陰とその長女で鎌倉高等女学校在学中の多佳子さん。蘇陰の「犬山十日の旅」(『智仁勇』第316号 昭和4年8月 智仁勇社)に拠れば、雷雨の中、犬山城天守に登閣し、蘇陰から丁寧な説明を受けています。翌日はうって変わって快晴、木曾川の所謂「日本ライン」の舟遊びも蘇陰父娘に犬山の文人も交えて楽しみ、船中では蘇陰の心遣いによって犬山の地酒「朝日影」を堪能しています。「蘇溪紀游三首」(「蘇溪」は木曾谷)などの詩も生まれました。蘇陰の案内を得て充実した犬山の旅だったに違いありません。

長野麻子さん講演会参加報告

10月17日（木）深沢学習センターにて

図書館主催の「令和6年度おはなしボランティア ステップアップ講座」のうち、一般公開で行われた長野麻子さんの講演会に参加しました。

長野麻子さんは、現代音楽から保育・幼児教育にわたる音楽の研究と絵本の研究を行っている方で、お母様の長野ヒデ子さんと一緒に『まんまんぱっ！』『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』という絵本も出版されています。

ご自身のお子さんが小さい時の動画で、赤ちゃんが発するクーイングと言われる声（あー、うーといった母音中心の声）や喃語（まんまん、ばあばあといった子音+母音の声）を話す様子、母親が歌う童謡を聞いている赤ちゃんの様子、少し大きくなって（3歳くらい）遊びの中で自然に歌が生まれる姿を見せながら、子どもが言葉を獲得していく過程をお話してくださいました。長野麻子さんは、元々「言葉」より人の体や心を動かす「音楽」に興味があったそうですが、子どもの言葉を知ること、言葉が深いものであると思うようになったそうです。

後半には、長野麻子さんのピアノ伴奏でまど・みちおさんの「ぞうさん」「おひさまにここにこ」、いわむらかずおさん（いわむらさんは義理のお父様）の「14ひきのこもりうた」を皆で歌い、長野麻子さんが演じる紙芝居『おひさまにここにこ』『うちのにやあにゃ』を楽しみました。長野ヒデ子さんが作られた絵本『とうさんかあさん』に自分が出てこなくて悔しい思いをしたこと、『おつきさまひとつずつ』では、ヒデ子さんと麻子さんのエピソードが描かれていることなど裏話もありました。楽しく充実した講演会で2時間半があつという間でした。

（杉崎）

作家・丘修三さんがTOTOMOに著書をご寄贈くださいました！



『丘修三 児童文学作品集』
丘修三 著 2024年・国土社 刊

丘修三さんから『丘修三 児童文学作品集』をご寄贈いただきました。童話4編、短編7編からなる11編の作品には、誰にでも思い当たるところがあるかもしれない子供の頃の心の中の動きや、人と人とのかかわりが書かれています。読んでみると、温かい気持ちに包まれたり、悲しくなったり、心に語りかけてくる作品たちでした。

丘さんが書かれた「あとがき」が心に残ったので以下に抜粋したものを紹介させていただきます。

『私の人生の前半は障害児との教師生活でした。初めて接した障害児たちは私に多くのことを教えてくれました。「自己の存在を是とするなら、他の存在も是としなければならない」ということと「人間社会は相互扶助で成り立っている」ということでした。障害児の存在が私に教えてくれたこのことは、私の人生観の根底になりました。』

作品集 あとがきより

今の世の中の状況にとって、とても大切な言葉だと思いました。皆さまにも是非手にとって読んで頂きたい一冊です。貸し出しをご希望の方は事務局までご連絡ください。（古矢）



今年もあとひと月となりました。今年度もTOTOMOの活動にご協力いただきありがとうございました。来年がより良い年となりますように。

今年最後のイベント「ファンタスティック☆ライフラリー・113」が12月1日(日)・2日(月)に鎌倉市中央図書館で行われます! 申し込み不要・無料で、皆さまのご来場お待ちしております! 詳細は図書館HPをご参照ください。 <https://lib.city.kamakura.kanagawa.jp/fl113.html>

第27回 2024年度会員総会

日時: 1月26日(日) 10時~12時 場所: 福祉センター第3会議室
 今までの活動を振り返り、今後の活動につなげるために今年度も会員総会を行います。
 詳しいご案内は、次号に添付する総会資料をご参照ください。
 午後には、学習会を予定しています。総会・学習会への皆様のご参加をお待ちしています。
 お問い合わせは、黒瀬 (TEL/FAX 0467-22-8545) まで。

おはなしひこうせん勉強会

日時: 12月19日(木) 10時~12時 場所: 福祉センター
 テーマ: 「飛ぶ・跳ぶ」 飛ぶ・跳ぶをテーマに絵本や紙芝居をご紹介ください。
 お問い合わせは、黒瀬 (TEL/FAX 0467-22-8545) まで。

読書会

日時: 1月24日(金) 11時~12時半 場所: NPOセンター鎌倉
 テーマ本: アーザル・ナフィーシー著『テヘランでロリータを読む』(河出文庫)
 岸田奈美著『家族だから愛したんじゃない、愛したのが家族だった』(小学館文庫)
 お問い合わせは、杉崎 (TEL/FAX 0467-41-4956) まで。

間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会

日時: 12月4日(水) 13時半~16時半 場所: NPOセンター鎌倉
 お問い合わせは、鈴木 (TEL 090-4728-5242) まで。

※会計から・年度末が近づいています。お立替いただいた分の精算が済んでいない方は、お早めに杉崎 (TEL/FAX: 0467-41-4956) まで、ご連絡ください。よろしくお願ひします。

★図書館友の会全国連絡会

来年度の要請活動に向け、司書職制度確立、JapanMarc普及、書店+出版+図書館の連携、などについて議論を深めています。お問い合わせは、阿曾 (TEL/FAX: 0467-45-5731) まで。



編集後記 * * * * *

☆イベントの多かった10月、そしてF☆Lの準備。大忙しの秋でした。おはなしひこうせんでは、F☆Lでクリスマス絵本を紹介するパネル展示やおはなし会を行います。(A.S)
 ☆2024年最後の会報となりました。ご寄稿くださったみなさま、お読みくださったみなさま、ご協力くださったみなさま、TOTOMOを応援してくださっているみなさま、今年もお世話になりました!(M.S)

題字・巻末カット: 小島寅雄

2024年11月27日発行

図書館とともだち・鎌倉(代表: 水岡やす子) 編集: 阿曾・黒瀬・杉崎・斉木

事務局: 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下1-14-34(黒瀬) TEL/FAX 0467-22-8545

HP: <https://totomo.sakura.ne.jp> E-mail: toshokantomodachi@gmail.com

